

エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和7年度エゾシカ WG の開催概要

- ・第1回会議 令和7年6月27日（金）斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

2. 主な議事内容

今年度予定している植生検討部会の開催方針について報告したほか、令和7年度の実行計画案に関して、今後の想定も踏まえた知床岬地区での対策を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

■2024（R6）シカ年度実行計画・実施結果

- ・シカ捕獲頭数は知床岬を除く全地域（隣接地域含む）でおおむね達成。
- ・航空カウント調査では、知床岬地区およびルサ-相泊地区の発見密度が前年と比べ上升。特に知床岬地区では近年個体数の増加が顕著になっており、昨シカ年度の発見密度の値は2000年代前半と同程度のものとなった（2024シカ年度：145.51頭/km²）。幌別-岩尾別地区では、2年ぶりに発見密度目標を下回る結果となった。
- ・昨年度に引き続き、自動撮影カメラを用いて季節移動と夏の密度推定を目的としたモニタリングを実施した。
- ・植生の指標性については、これまでのモニタリング結果も踏まえて今年度（令和7年度）からの2ヵ年で開催される植生指標検討部会で検討する。

■2025（R7）シカ年度実行計画案について

- ・おおむね目標に沿った捕獲が行われている地区では従来通りの捕獲を継続する。岬地区においては、以下の指摘があった。
- ・冬季に実施している航空モニタリングについては自動撮影カメラによる調査で代替できる可能性がある。
- ・再増加したシカを効率的に捕獲するためには、既存の大型仕切柵を活用し、餌による誘引や追い込み捕獲が不可欠である。そのためには仕切柵の一部改修、延伸が必要であることから、WG委員などの意見を取り入れて今年度中に設計したうえで、次年度の施工、および捕獲を行う。
- ・本格的な捕獲が次年度になることから、草原植生が最もダメージを受ける春季から初夏（4-6月）は可能な限り捕獲圧をかけるべき。手法としては従来の銃猟や、簡易囲いわなが想定される。
- ・捕獲個体の搬出は非常に重要な課題であるため、実現可能な搬出方法及び現場に残置できる場合の条件を整理し、WGとは別の場で関係者で協議を行うことが必要。

■植生指標検討部会の開催について

- ・本年度実施予定の植生指標検討部会の開催方針およびスケジュール想定を報告した。
- ・現行の管理計画ではシカの増加以前の 1980 年代初頭を暫定的な目標とし、植生回復について四段階の回復過程が想定されているものの、目標とする植生の実態が明確ではないことに加えて、評価軸も数値的には定まっていない。また、現況の植生変化が本来の回復なのか偏向しているのかも明確ではない。このため、現状の植生状態の評価と将来的なビジョンが見えにくい状況にある。
- ・植生指標については、これまでモニタリングしてきた回復指標種候補の適否に加えて植生機能が持つ指標性等も検討しつつ、回復目標との整合性を取りながら、明確化する必要がある。
- ・増加傾向にあるササを回復として評価するのか、あるいはシカの採食や気候変動に対する応答などの判断が今後の植生管理に重要なことから、ササを刈り取って回復過程をモニタリングする野外実験区の設定も検討が必要である。

3. 令和 7 年度エゾシカ WG に関する今後の予定

第 2 回エゾシカ WG：令和 7 年 11 月 20 日（予定）

第 1 回植生指標検討部会：令和 7 年 11 月 21 日（予定）

以上